



年 組 名前

道新で ワークシート

朝の食卓

オンラインの感触 井上 博登

2月4、5日の2日間、第10回全国石炭産業関連博物館等研修交流会が開かれた。同会は、全国の産炭地で調査研究や地域活動に携わる人たちの交流と研さんが目的。初めてオンラインで開催された。個人のパソコンからの参加もできれば、各地域の会場まで出向き、大画面モニターを見ながらの参加もできた。

三笠市のみかさ炭鉱の記憶再生塾の伊佐治知子さんを伴って、夕張市の地域会場に足を運んだ。会場の設営は、同市の清水沢プロジェクトの佐藤真奈美さんたちが一手に担ってくれた。2016年以来の久しぶりの参加となったが、北海道から九州までと台湾を加えた各地の濃密な事例報告を存分に聴けた。

オンライン初心者にとって、いくつかの発見があった。会場のモニターから声と表情を十分に読み取ることができれば、実際に会った時のコミュニケーションと遜色がないことだ。コメントの入力や絵文字での感情表現など、対面とは違った方法もあり、遠隔地の参加者同士が離れたまま、同時に交流することは可能だった。同会の最大の特徴である懇親会での交流や開催地の炭鉱などを巡るツアーはお預けとなったが、今回のような大規模な会合であっても、おおむね満足することができた。

コロナ禍でさまざまな物事が変容している。通信技術により、実際に顔を合わせるのと以外のコミュニケーション方法の裾野が広がるのであれば、それも悪くないと感じている。

(赤平市炭鉱遺産ガイダンス施設学芸員)

2023年2月18日 (土) 朝刊 全道版 31ページ (記事は再編集しています)

① 傍線部「いくつかの発見」とあるが、その「発見」として最も適切なものを、次のア～エからひとつ選び、記号で答えなさい。

- ア コメント入力の機能は、対面と異なった方法であるため、同時に交流するのが難しいという発見。
- イ 声と表情を十分に読み取ることができれば、オンラインでもコミュニケーションはとれるという発見。
- ウ 開催地の炭鉱をめぐるツアーが開催されたため、参加者は例年から比べると増えたという発見。
- エ 参加者同士が離れている遠隔地からのオンライン参加でも、懇親会で交流ができたという発見。

② 記事の内容を下記のように要約した。その要約にある空欄 に、記事の中から適切な語を4字で抜き出して、文を完成させなさい。

◎オンラインでの交流がコミュニケーションの方法の一つとして、広く社会に浸透するのは 。